

ふる里散歩

天覧山周辺の自然に親しめるふる里散歩へふるってご参加ください。
【各回共通 共催/(公財)埼玉県生態系保護協会飯能名栗支部 はんのう市民環境会議(10月、11月を除く)】

7/16(日) アカコブゾウムシ 雨天中止
「虫シ探検隊」の巻
 飯能の森で生きる虫たちに出会いに、さあ出発!
 集 合/飯能駅南口 午前9時集合(解散:12時)
 持ち物/飲み物、蜂対策でサンダル・黒い服装禁止
 要申込/先着20名(小学3年生以下は保護者同伴)
 申込先/さいたま緑のトラスト協会:048-824-3661(7/1~受付)
 参加費/200円

8/6(日) 雨天または増水時中止
「名栗川を歩いて発見」の巻
 名栗川の水生物を観察しながら
 川の保全と活用を考えます。
 集 合/飯能市郷土館ロビー 午前9時30分
 要申し込み/てんたの会(042-974-1691 浅野)
 持ち物/弁当、飲み物、帽子、着替え、筆記用具、
 川を歩ける服装(運動靴で)
 参加費/大人300円、子ども100円

9/10(日) 雨天中止
「秋の野草観察会」の巻
 初秋の天覧山周辺で、可憐な野の花々を 観察し
 ながらの楽しい散歩です。
 集 合/飯能市郷土館ロビー 午前9時30分 解散13時頃
 要申し込み/てんたの会(042-974-1691 浅野)
 持ち物/弁当、飲み物、帽子、筆記用具、山道を歩ける服装
 参加費/大人300円、子ども100円

10/9(月・祝) 雨天中止
第6回「里山バザール」
クロアゲハの幼虫
 午前11時~午後3時(雨天中止)
「ほどけどじょうの里」で今年も「里山バザール」
 を開催します。詳細は別記を参照してください。

11/23(木・祝) 参加費無料 雨天中止
天覧山谷津の里づくりプロジェクト
「里山復活祭」昼食付き
 天覧山下の「ほたるの里」で谷津田の保全作業を
 行います。谷津田で出来たごはんを昼食!
 集 合/市民会館北側中央公園トイレ付近 午前9時
 要申し込み/042-973-2125 はんのう市民環境会
 議事務局(市役所環境緑水課)
 持ち物/軍手・タオル・飲み物
 *主催:はんのう市民環境会議 協力:てんたの会

12/10(日) 雨天中止
「初冬の里山散策」の巻
 天覧山周辺の森は、最後の紅葉を散りながら冬支
 度を始めています。
 集 合/飯能市郷土館ロビー 午前9時30分 解散13時頃
 要申し込み/てんたの会(042-974-1691 浅野)
 持ち物/弁当、飲み物、帽子、筆記用具、山道を
 歩ける服装
 参加費/大人300円(子ども100円)

ご案内 東谷津ほどけどじょうの里

~作業と石窯のご案内~

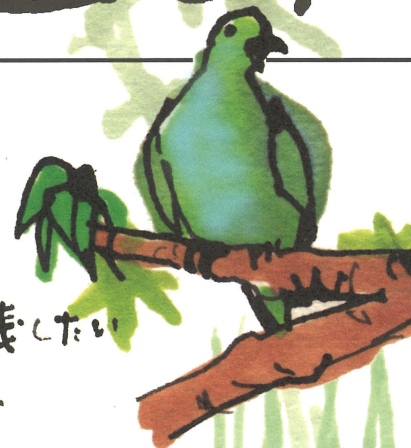
東谷津ほどけどじょうの里では、基本的に月2回
 現地にも集まり、保全作業や石窯でのパン作りな
 どを行っています。
 作業は、トラスト地の整備、薪作りなどです。
 またみんなで手作りした大きな石窯で、パンや
 ピザや焼き芋を焼いています。
 ぜひ、お気軽にご参加ください!
 作業日/第2、第4日曜日 10時~15時
 *作業日は変更する場合があります。
 問い合わせ/早瀬 042-977-1890

1995年、巨大住宅団地開発の計画がきっかけで発足した
 「NPO法人天覧山・多峯主山の自然を守る会」は、この地の自然
 をいつまでもという思いで、様々な活動を続けています。どうぞ
 あなたも会員になって活動を支えてください。
 *年会費 ●正会員……普通会員 2,000円
 特別会員 10,000円
 ●賛助会員………1口10,000円
 *会費・カンパ送り先…郵便振替口座 00580-9-16342
 「NPO法人天覧山・多峯主山の自然を守る会」



やませみ

まだ明けきらぬ空を
 切り裂く鳥の哭声交し
 この唄が消えぬ世界を残したい
 その願いのために私たちは
 声をあげ続け山はその姿を残した
 この野山に生きる命に力をもらい
 これからと叫ぶ声をあげ
 野山を歩きつづける



もくじ

- これから創る里山の夢
- モニタリング1000里地調査 報告
- 谷津田の再生への取り組み
- 石窯ワークショップ報告
- 第6回てんた里山バザール開催
- ふる里散歩
- 東谷津ほどけどじょうの里 ご案内

やませみ 75

発行日/2017年6月1日
 編集・発行/NPO法人
 天覧山・多峯主山の自然を守る会
 事務局/TEL042-974-1691(浅野正敏)
 埼玉県飯能市柳町18-17
 イラスト・構成/石岡真由海



これから創る里山の夢

天覧山裏の麓に当会の活動拠点となっている「東谷津トラスト地」通称「ほとけどじょうの里」と呼んでいる場所があります。2009年9月にナショナル・トラスト運動によって約600㎡の土地を、今年(2017年)2月には隣地約800㎡の土地を取得しました。最初の土地は、元々は田圃として使われていた湿地ですが、今年取得した土地は台地であり、その保全活用の考え方が違ってきます。この土地について、どのようにしていったら良いかを考えてみました。

新たに取得した場所は、これまで放置された状態で、篠竹の藪となっています。そのままにしておけばこうなるという見本です。かつては開墾して畑として利用していた時代もありましたが、そこへ戻してもイノシシなど野生動物の餌場となってしまうでしょう。里地里山の環境といえば、雑木林(二次林)か萱場(草原)というイメージが湧きますが、現在は暮らしと密着していないため、手入れを続けていく困難さを抱えています。この場所に行くのが楽しみというものでないと、だんだんに手入れがされなくなり、藪へと戻ってしまうでしょう。

ここの笹藪は一旦全部刈り払い、敷地の真ん中にエノキ(榎)を植えたらどうでしょうか。成長も早いし、周辺に妨げになる木がなければ「この～木なんの木、気になる木」の歌に出てくるような、枝葉を大きく広げたシンボルツリーになる事間違いありません。草刈り作業で汗をかいた後、木陰でティータイムを楽しむなんて想像しただけでも贅沢な気分になります。この木を中心にした「里山バザール」も楽しそうです。きっと子ども達は、この木に登るに違いありません。小川で水遊びして、斜面を滑り、草原を飛び回る子ども達のはしゃぐ声が響きわたる、そんな光景が目に入ります。でも、エノキは国蝶オオムラサキが食草としている木なので、冬

の間は根元の枯葉の中で幼虫が越冬しているって事も知ってほしいのです。里山の自然について興味を持つきっかけにしてほしいと思います。それと、エノキが大きく成長する範囲を避けて、周辺にはクリなどの実のなる木も植えて収穫も楽しみたいものです。そんな夢を描いていると楽しい気分になります。

「東谷津トラスト地」は、里山の入口にあって、容易に参加できる位置にあります。里山づくりに気軽に親しめる小さな実験場として整備していったら良いのではないのでしょうか。様々なご意見があるとは思いますが、里山保全是楽しむことから始めないと続きません。ゆっくり流れる時間を楽しむ事ができる場所、そんな素敵な小エリアづくりにあなたも参加してみませんか。

てんたの会 代表 浅野正敏



台地部分が今年取得した東谷津トラスト2号地

アライグマの駆除はじめました

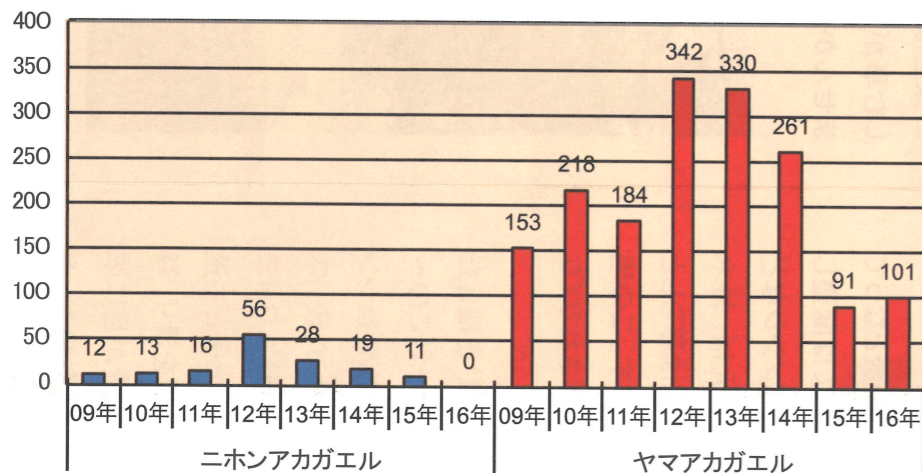
会員 大石 章

モニタリング1000里地調査(以下、「モニ1000」)では、毎年2月に調査報告会を行っており、全調査員が1年間の調査結果を報告するとともに、里山管理の方向性などについて意見交換しています。飯能市、西武鉄道など里山保全に関わる方々にも参加いただいています。

里山管理にはマニュアルはありません。はんのう市民環境会議の「天覧山谷津里づくりプロジェクト」や本会の東谷津の作業は、作業方針や年間スケジュールができていますが、月1~2回の作業は天候や参加者数に左右されますし、たまに業者が入って比較的大規模に伐採などを行われることもあります。

このため、常に生物多様性の状況をチェックしながら、必要に応じて対策を検討していくことが必要で、このような方法を「順応的里山管理」といいます。モニ1000の結果で近年気になる状況としては、ここ2年ほどヤマアカガエルの産卵数が急激に減少し、ニホンアカガエルの産卵が見られなくなったことのほか、モニ1000の調査対象で

カエルの卵塊産卵数の推移



タヌキ



アライグマ



はありませんが、ヒキガエルやトウキョウサンショウウオの産卵が減っています。

その原因として、特定外来種のアライグマが考えられます。雑食性でカエルなどの両生類などを食べます。木登りも得意で、ムササビや鳥の巣を襲うこともあるようです。

2015年から自動カメラを使った哺乳類調査も始めましたが、アライグマが谷津を徘徊していることが分かりましたので、アライグマを駆除することを決めました。

市役所から捕獲用のワナを2つ借りて、2月下旬から谷津に設置しました。エサは最初はリンゴ、次いであんドーナツにし、撒き餌にキャラメルコーンも使用しました。

5月上旬までにタヌキが4頭かかりすぐに逃がしました。アライグマは3頭捕獲できました。エサだけとられることもあり、なかなか簡単には捕まらないという印象です。

設置場所などを変えながら、冬まで継続していこうかと考えています。

谷津田の再生への取組み

1960年代、谷津田では稲作が盛んで、谷戸を流れる水路には秩父連山からの豊富な湧水が流れ、水際の石を手で持ち上げると、石の下には必ずと言っていいほどサワガニの姿が見られました。東谷津のある諏訪沢入では、今ではほとんど見られなくなったスナヤツメなどの魚や、水田に目を移すとドジョウやメダカ、ホトケドジョウ、マブナなどの魚類、イモリやトウキョウサンショウウオなど両生類、タガメやゲンゴロウなど水棲昆虫の姿がありました。天覧山周辺の谷戸ではカエル類も多く、早春の賑やかなヤマアカガエルの蛙合戦に始まり、ニホンアカガエル、アマガエル、シュレーゲルアオガエル、アズマヒキガエル、タゴガエル、モリアオガエル、トウキョウダルマガエル、ツチガエル、ナガレタゴガエル、カジカガエルと種類も豊富でした。

1980年代に入ると、天覧山の周辺では丘陵地を崩して谷を埋め、大規模な住宅地やゴルフ場の開発が進み、奥秩父から連続していた丘陵地は開発により分断、孤立されていきます。棲家を失ったシカやイノシシなどの獣たちは食糧を求め人里近くまで出没するようになったのもこの頃からです。水量不足や獣害などから米作りを断念し谷津田での耕作を放棄する農家も増えてきました。

カエルたちもこの頃を境に谷戸から姿を消す種類が増えてきます。豊富な水量で砂礫の多かった御嶽入や天覧入の沢では水量の減少によって泥土が目立つようになり、カジカガエルの澄んだ鳴き声が途絶え、ナガレタゴガエルも姿を消しました。湧水が流れる石垣の間に

産卵するタゴガエルも湧水の減少とイノシシの食害により姿が見られなくなりました。

耕作放棄された水田では、ガマなどの植物が繁茂したのちヨシ原へと遷移は進み、やがてアカメヤナギなどの樹木が育ち谷戸の樹林化が進みます。ニホンアカガエルやトウキョウダルマガエルなど、産卵にある程度の広さと水深の水溜りが必要な種類では産卵場所を失い、その姿を見る機会は少なくなりました。

現在、天覧入りや東谷津で行われている里地の再生では、田んぼや池づくりによってカエルやサンショウウオなどの産卵場所としての止水域を確保し、絶滅が危惧されるホトケドジョウやヌカエビなど希少な動植物の生息環境を維持する取組みが続けられています。

文/市川和男 (公財)日本生態系協会 会員



トウキョウダルマガエル

●石窯ワークショップ報告

今日焼き立て!

会員 長谷川行雄

東谷津トラスト地、通称「ほとけどじょうの里」にある石窯は、月二回の定例作業日に火入れを行いパンやピザ、お菓子を焼いています。その他エコツアーや里山バザールなどイベントの際にも火入れを行いイベント参加者を楽しませてくれています。



その石窯をもっと活用してもらいたいということで、3月12日に石窯でピザを焼く石窯ワークショップを行いました。ワークショップでは石窯でピザを焼くための窯の準備や火入れの仕方、ピザ台の作り方などの作業を参加者と一緒にしました。ワークショップ1回ではなかなか身につけるのが難しいと思うので、ご興味のある方は作業日にぜひ一緒に石窯を使ってください。参加者に感想をいただきましたので掲載いたします。

普段の作業では、石窯やピザ焼きは一部の人に任せきりで、草刈りなどに専念していましたが、今後は誰もがなんでもできるようにするのが望ましいですね。
改めて石窯の使い方を教えてもらって、普段すぐ近くで作業を見ていたわりには、新たな発見ばかりでした。まずえーっと、何をやるんだっただけかな。(何の発見があったんや!)
まあ、薪を燃やして、石窯の外側が暖まる頃には、ピザ生地を裏面に用意してもらい、後はビール飲みながら適当にやれば、ピザが食べられることが分かりました。(おいおい!)
最低限、ビールを忘れないというのが、このワークショップで学んだ重要なことでした。
(会員 大石章さん)

新しい方、温度の保ち方等、初めて知る窯の使い方はとても興味深い物でした。
以前、里山バザールで窯で焼いたピザを食べた時から、その美味しさとほとけどじょうの里の居心地の良さに心惹かれ、いつか北風風シモノロール(往復ビンタ)を焼いてみたいと思っていましたが、今回の体験でそれが、里山の美しさをより多くの人に気付いてもらいたいなと思いました。(参加者 Y.S.さん)

第6回 「てんた里山バザール」開催!!

今回で6回目、今年も谷津田で「里山バザール」を開催します。秋の一日、石窯の周りで聞く「小さな森の市」を楽しみませんか!
てんたの会でも石窯で焼いたピザを販売します。ぜひぶらりと「里山バザール」を訪ねてみてください!



日時 10月9日(月・祝)午前11時~午後3時
会場 天覧山東谷津「ほとけどじょうの里」
(アトム像のある公園を通り、天覧山登山口から右手に折れて山道を直進200m)
主催 NPO法人天覧山・多峯主山の自然を守る会(てんたの会) **雨天中止**

出展者を大募集!!

食べ物や雑貨、野菜等々、何でもOK。
あなたの小さなお店を開きませんか。
申込み: 詳細や出店希望の方は、下記へご連絡ください。
042-977-1890(早瀬)

